

会 議 録

承認																																							
会 長	白出委員	湊口委員																																					
2/23	3/3	2/25																																					
《開催日時・場所》			令和7年1月30日（木曜日）10：00～11：30 岸和田市役所新館4階 第一委員会室																																				
《名 称》 令和6年度 第4回岸和田市都市計画審議会																																							
《出席者》 （審議会委員出欠状況） <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>赤坂</td><td>石田</td><td>伊勢</td><td>大原</td><td>奥</td><td>木岡</td><td>笹倉</td><td>信貴</td></tr> <tr> <td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td></tr> <tr> <td>下村</td><td>白出</td><td>所</td><td>濱田</td><td>馬場</td><td>久</td><td>松井</td><td>湊口</td></tr> <tr> <td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> </table> （委員16名中、12名出席） 事務局：幹 事：奥野まちづくり推進部長、越智都市計画課長、田中企画課長、生嶋建設指導課長 書 記：都市計画課：鎌苅担当主幹、十倉担当長、畑谷、頓花 関係部課：まちづくり推進部：田中理事 交通まちづくり課：秦課長、澁谷担当長								赤坂	石田	伊勢	大原	奥	木岡	笹倉	信貴	○	○	○	○	○	×	○	×	下村	白出	所	濱田	馬場	久	松井	湊口	○	○	○	×	×	○	○	○
赤坂	石田	伊勢	大原	奥	木岡	笹倉	信貴																																
○	○	○	○	○	×	○	×																																
下村	白出	所	濱田	馬場	久	松井	湊口																																
○	○	○	×	×	○	○	○																																
《傍聴者》 0名																																							
《概 要》 ■諮問事項 【第1号議案】南部大阪都市計画地区計画の変更（岸和田市決定） （地区名称：岸和田丘陵地区） ■報告事項（令和6年度諮問予定案件） 1. 市街化調整区域における地区計画のガイドラインの見直しについて 2. 立地適正化計画の策定について ■その他																																							
《内 容》 ■岸和田市審議会等の会議及び会議録の公開に関する条例等について （久会長） ・令和6年度第4回都市計画審議会の会議録承認者として白出委員と湊口委員の2名を指名。 ■諮問事項 【第1号議案】南部大阪都市計画地区計画の変更（岸和田市決定） 第1号議案について、都市計画課より説明。 【質疑の概要】 （久会長） ・第1号議案について原案のとおり同意するとしてご異議はないか。 （各委員） ・異議なし 【答 申】 第1号議案について、原案のとおり同意する。																																							

■報告事項

1. 市街化調整区域における地区計画のガイドラインの見直しについて

市街化調整区域における地区計画のガイドラインの見直しについて、都市計画課より説明。

【質疑の概要】

- ・特になし

2. 立地適正化計画の策定について

立地適正化計画の策定について、交通まちづくり課より説明。

【質疑の概要】

- (下村委員) ・市街化区域の面積に対して居住誘導区域の面積割合はどの程度か。また、住居系の地域で居住誘導区域から外されたところはあるか。
- ・資料 15 ページの第 5 章の都市構造の拠点の考え方は、「都市計画マスタープラン」において位置づけのある拠点になっているが、和泉大宮駅が外されている明確な理由はあるか。

- (交通まちづくり課担当) ・市街化区域の面積に対して居住誘導区域の面積割合は、61.9%になっている。公共交通から離れている地域や、路線の本数に重みづけをしている為、居住誘導区域から住居系の地域で除外しているところもある。
- ・和泉大宮駅周辺に関して、生活拠点として「都市計画マスタープラン」に位置付けられているが、施設の立地状況や土地利用の状況を含めて、新たに誘導施設に位置付ける施設がない事から外している。

- (下村委員) ・絞り込んだという理解で良いか。

- (交通まちづくり課担当) ・都市機能誘導区域に関しても、絞り込んでいる理解で結構です。

- (久会長) ・パブリックコメントや説明会で気にされる市民もいる可能性がある。今の説明だと計画策定側の論理になっている。和泉大宮駅周辺は「都市計画マスタープラン」に生活拠点として位置付けられているが、大規模な商業施設を誘導するのではなく、小規模な商業施設等が集積して生活利便性を高める地域として位置付けていると市民の目線に立った説明が必要である。

- (下村委員) ・居住誘導区域から外れている住居系の土地利用について、市民の不安を解消できるような説明をされる方が良いと考える。

- (石田委員) ・資料 25 ページ第 11 章の評価方法について、2026 年はかなり具体的に目標値を設定しており、2034 年の居住誘導区域の人口密度 67.4%や市全体の人口に対する居住誘導区域内人口の割合 75.6%と推計値が記載されているとあるが、これは岸和田市が実施しているか。

- (交通まちづくり課担当) ・国立社会保障・人口問題研究所（以下社人研という）の推計値を用いており、岸和田市独自で実施している推計ではない。

- (石田委員) ・拠点における滞在人口の増加率は、基準値が 100%であり、目標値が増加と記載されているが、数値をあえて記載しない理解で良いか。

- (交通まちづくり課担当) ・具体的な数値が入っているところは社人研の推計値を用いているが、その他の増加と記載しているところは、上位計画においても目標値として設定されている項目になっている。その為上位計画の改定に合わせる形で、具体的な数値が出てくるものと考えている。上位計画に合わせて増加と記載している。

- (久会長) ・人口ビジョンを作成するときに、社人研の推計よりも若干高めの目標を掲げることが多いため、社人研の推定値まで基準を下げてても一定問題ないかと考える。社人研と

人口ビジョンの推計値の基準幅はどうなっているか。

- (交通まちづくり課長) ・岸和田市総合計画策定前に取りまとめた人口ビジョンの推計値では、施策が進んだ場合という事で3段階程度人口があったが、今回記載させていただいているものは、純粋な社人研の推計値となり一番下のところになる。
- (久会長) ・基準値よりも下がったとしても、目標値は維持していきたいという意味合いも理屈付けできるかと思うので、書き込んでおいた方が分かりやすいかと考える。
・パブリックコメント案作成に間に合うのであれば、第7章の交通まちづくり指針に交通まちづくりアクションプランの内容がそのまま入ることは良いが、第8章の防災まちづくり指針ではかなり広範囲のことが計画に記載されているため、防災計画と誤解される恐れがある。その為今回は立地誘導という観点で重点化して絞り込んで書いた方が、市全体のソフト面も含めた防災まちづくりの計画とは違うという説明もできる。
- (下村委員) ・災害が発生した時の一時避難地や広域避難地があるか否かで居住誘導区域の設定に関わってくると思うので、災害発生後の内容は計画に記載しないか。
- (交通まちづくり課長) ・災害リスクのある所に関しては居住誘導区域から除外する事としている。避難経路や避難場所等の災害リスクも含めて総合的に検討することで居住誘導区域を設定している。居住誘導区域外の部分は災害レッドゾーンや、災害リスクの高いエリアになっている。
- (久会長) ・人口が増えすぎると避難所の収容人数を越えてしまう事や避難経路が分断されてしまう事等もあるかと思うので、そういう観点でもチェックしていただきたい。
- (交通まちづくり課長) ・地域防災計画の中で避難経路や避難場所も整理されている為、災害レッドゾーンは省いているが、それ以外の災害リスクについても一定立地適正化計画としての立地誘導に関して、関係のある施策と合わせて整理していきたいと考えている。
- (所委員) ・目標値が達成できなかった場合、目標値を後追いするのか。また、達成できなかった場合どうしていくのか記載するのか。
- (交通まちづくり課長) ・目標値に関しては概ね5年毎に見直していく。また、見直し以外のタイミングでも数字を追跡していくことを考えている。
・具体的にどのように改定するかは記載しない予定になるが、必要に応じて数字が不適当であれば、改定していくことを考えている。
- (久会長) ・数字は変えてはいけない。何年も見直ししながら数字に近づける努力をして、それでもだめであれば数値の適正化を図っていく段階だと考える。
- (交通まちづくり課長) ・評価指標を設け評価した段階で、達成できているか否かは非常に大きな問題かと思う。そのあたりについては、年度を決めて見直しをするのではなく継続して指標を追いかけていきたいと考えている。また、目標として基本方針を達成するために施策を位置付けているので、施策の妥当性についての判断もしていかないといけないと考えている。
- (松井委員) ・居住誘導区域の人口密度 73.7 人/ha や市全体の人口に対する居住誘導区域内人口の割合 75.4%は、社人研の中位予測が入っているのか。
- (交通まちづくり課長) ・社人研の中位予測になる。
- (松井委員) ・居住誘導区域内の密度を一定値としているが、立地適正化計画は性質上地域別に目指すべき人口密度があるかと考えるが、地域別に設定しないのか。
- (交通まちづくり課長) ・今回策定する立地適正化計画では地域ごとで定義していない。
- (松井委員) ・国土数値情報のデータベースで 500 メートルメッシュの人口予測値が 2050 年ま

- ・資料 21 ページのその他考慮すべき要素について、脱炭素が環境的要素として記載されているが、環境分野では脱炭素と生物多様性が同じくらい重要視されているので、少し検討していただきたい。

- ・日本では脱炭素しか読まないが、世界的には生物多様性と脱炭素が 2 本柱として動いているので、岸和田市の市街地で生物多様性をどう書き込むかは難しいところはあるかと思うが、少し検討いただければと考える。

1. 次回都市計画審議会の公開・非公開について

- ・次回開催候補日；令和7年3月26日（水）午前
- ・諮問案件；市街化調整区域における地区計画のガイドラインの見直しについて
；立地適正化計画の策定について